

三保通信

17. 7. 1

〒424-0401

(株) 三保製薬研究所内
静岡市清水区中河内一五二三
☎054-396-3321

管(かん)というには、その働きについて少々謙遜が過ぎるのではないか? いや消化管のことである、それは「腸」のことである。

消化管といっても、口から小腸までで食べ物の消化が行われ、その小腸で栄養素は吸収され、残さの排泄は大腸で行われる。一口に消化管と云うのだが、その役割は消化、吸収、排泄の働きのあ

この、口から肛門に至る1本の管状の器官である消化管を、當瀬規嗣・札幌医大教授は「人間ちくわ理論」で説明する。
當瀬教授は「消化管を中心に考えると、人間の体はちくわみたいなものです」と云うのだが、そうすると

消化管つまり腸の働きは、管としての働きを認めているに過ぎないのかと、それは謙遜が過ぎると考えるのである。

菅ではなくて幹(かん↓みき)、それも腸腸はっしの幹、勿論それには枝葉を蓄えて、風あらばそよぐ幹であるが、そんな幹



として働きを認識しなければならぬのではないか。

ここで枝葉というのは、心臓も腎臓も肝臓も、そして脳も腸の幹に連なる枝葉、なのである。枝葉をたくわえた腸腸はっしの幹の腸をイメージしてこそ、腸の本来の仕事を期待することができると思うのである。
花見にとって、腸が何たるか

「考えたこともない…」
その働きについて、食欲のための存在にすぎない腸、
「それ以外に何があるって言うのかなあ?」

栄養源が何にしろ、腸で吸収してきた全ての生き物、腸だけはある全ての生き物にとって、腸にもつとつと豊かなイメージがあつてもいいものではないだろうか。それを考えさせてくれたのが、実は「食べない人」なのである。

日本にも、一日青汁一杯の人、世界にはインドのヨガの行者のように何も食べなくても生きていける人がいる。そうすると腸は、単純に消化管だけにあらずではないか。だから管ではなく幹、静にして動! そう! はっしとした生命感あふれるイメージが湧(わ)いてくるのである。
「草木が強くさかんに茂るさま、というんでしょ!」
花見も少し、酌(く)みとつてくれているのか?」

(H)

満喜の「喜びと感謝と」

看護師 若松満喜



地球とつながる

梅雨に入り雨が降るたび、畑や庭の草花がぐーんと大きくなり、恵みの雨に、豊かに生かされていることを感じる今日この頃です。

最近、裸足で歩くことがめつきりなくなりりましたが、晴れたある日、子どもたちが裸足で走りまわっているのを見て、思わず私も裸足になり土の上を歩きました。すると、とても気持ちがよく、懐かしくて、なんだか気分がすつと落ち着く感覚を覚えしました。地球とつながる感覚、そこにはどのような力が働くのでしょうか。

足病医学、ウイリアム・ロッシ博士は、「足裏には体のほかの部分とは比較にならないほど末梢神経が集中している。それは地面と我々を接続

させるためであり、物理的に地球と我々をつないでおくためである。これを感覚反応と呼ぶ。すべての動物の足も、人間と同じように多くの末梢神経が集中している。地球は電磁気の層で覆われている。これによって人間も動物も感覚反応が与えられている。ほんの数分間、裸足で地面を歩いてごらん。人間も含めて命あるすべてのものは、足や根でその地面からエネルギーを得ている。」と述べています。何兆もの細胞から形作られる私たちの体は、電気を通す伝導体です。地球が放つ電気（自由電子）には抗炎症作用があり、体の機能を正常な状態に戻そうとする力が働きます。そして様々な病気の原因である「炎症」を抑えるための電子が補われます。裸足で地球の上に、



く立ち、体と地球のエネルギーが交流する時に、私はあの「落ち着く感覚」を感じられたのだと思います。現在は、様々な電化製品、携帯電話などが普及し、便利な社会になりました。反面、それらから発せられる電磁放射線の影響を常々受けて生活しています。電磁放射線にあたった細胞は、一秒間に何億回も振動し「異変」を起こしてしまいます。細胞分裂が活発な組織ほど遺伝配列が正常でなくなるなど深刻な悪影響をうけることから、胎児は特に気を付けなければなりません。精子の数や運動性の低下、奇形などにも影響するという研究結果もあります。他にも不眠、耳鳴り、頭痛、イライラ、筋肉痛、記憶力減退、鬱病、アトピー性皮膚炎、関節リウマチなど様々な症状をもたらします。さらに携帯電話やスマートフォンから出ている電磁放射線は、(三面上段へ)

(二面下段より) 福島原発から放出され続けている放射線と同じ仲間、WHO(世界保健機関)の国際がん研究機関が、「発がんの可能性がある」と認めた発がん性物質であり、脳の学習・記憶にかかわる海馬を傷つけることもわかっています。ロシアやインド、アイルランドなどでは、16歳以下の子どもへの携帯電話使用を禁止しており、フランスやベルギーでは6歳以下の子どもには販売が禁止されるなど、世界的に電磁放射線から子どもたちを守る動きがあります。幼い子どもたちの脳は小さく軟らかいため、大人よりも何倍もの電磁放射線を吸収してしまうからです。しかし、日本は、電磁放射線規制値が世界一高く、(例えば、「高周波」の規制値は、もっとも厳しいオーストリアの1千万倍)自分で意識して影響を減らすことが必要です。対処法としては、電化製品からできるだけ距離をとる(最低1メー

トル以上)ことや、使う時間をできるだけ短くするなどです。そして何より、自然界の動物たちのように、靴もソックスも脱いで、地球の大地とつながることで、電磁波を体外に放出し、大地からパワーをもらい、健康サイクルを作り出すことができるとは思いません。「なんとなく不調」から、「落ち着く感覚」の中で生活したいですね。

満喜さんの文章から
ヒント、教えられました!



「子どもたちが裸足で、土の上を…。とても気持ちよく…、地球とつながる感覚、そこにはどのような力が働くのでしょうか？」

巻頭言で、「腸は幹」の話をしているのですが、その幹の根が地球とつながる感覚こそ、腸が強くさかんに茂る様をイメージできるのだろうなと思いました。(H)

『あなたに予防法・健康講座 in 京都』開催決定!!

新発想「マイナス腸活」で、からだの自然治癒力を高めませんか?

日 程: 2017年11月19日(日)



時 間: 【受付開始】9:30 【午前の部】10:00~12:00 【午後の部】13:00~15:00

会 場: 京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都 3階 大会議室

アクセス: 京都市営地下鉄 烏丸線「丸太町」駅直結(JR京都駅から地下鉄で7分)



講 師: 井上 敬氏 (医師) 「腸健康法! ~健康は腸活でつくる~」

赤池 キョウコ氏 (イラストレーター) 「プチ断食で健康的に美しく!」

森 美智代氏 (鍼灸師) 「青汁一杯で生きられる体のメカニズム」



申込受付: 2017年8月開始予定

お問合せ: ☎054-396-3321 予防法医学会事務局 花澤 (株式会社三保製薬研究所内)



小山内めぐみさんからのお便り

「まず、腸の調子を



整えましょう！」

小山内めぐみさんのお手紙
を転載させて頂きました。タ
イトルは編者Hが付させてい
ただきました。(H)

『三保通信』17.05.01号拝受。あ
りがとうございます。

九七歳の越智さんのお便りはすご
い！ご高齢の愛飲者の声が聞けるの
は大いに楽しみです。

ところで、前便にて、現代医療の
反省が最も遅い日本…と指摘しまし
たが、NHKが朝のニュースで朝食
の特集をしていたのには呆れまし
た。せめて、朝食が有害であること
ぐらいは普及して欲しいものでは
す。これも、現代医療に対する反省
が足りない一面が現われているでし
ょう。でも、日本でも、様々なきつ

かけから現代医療に疑問を感じて
いる人が少なくないようです。

例えば、上野圭一氏は、父親が鍼
灸師で、たまたま父の治療を受け、
東洋医学の効果に気付き、それから、
東洋医学を学んで、日本ホリスティ
ック医学協会を築かれますが、ある
翻訳書の解説で以下に述べていま
す。

「現代医学の思想（と呼ぶに
値するとしての話だが）は、還
元主義に依拠している。

医学では、人間を組織・細胞・
分子と構成要素に還元して、要
素同士のミクロな振る舞いを観
察することで全体を理解し、全
体に対処する。この思想は細菌
感染症や救急医療…などには有
効だが、限界がある。テクノロ
ジー偏重による医療の非人間化、



医療費の爆発的高騰、代替医学
の劇的な台頭などによって、現
代医学自体が体質改善を迫られ
る時期が来たのである。」

あるいは、日本の哲学史研究から、
日本特有の身体観を見出し、西洋医
学偏重の現代医療に疑問を感じ、人
体科学会を設立したユニークな研究
者、湯浅康雄氏もいます。『宗教経
験と身体』という著書の中で、以下に
語っています。

「近代医学の基本的な考え方
は、個別的な器官の機能に注目
し、それらを寄せ集めて身体の
システムを理解するという部分
中心的な考え方をとってきた。
そのため臨床面では、専門が
細かく分かれるセクシヨナリズ
ムの医療体制ができてきたとも
言えるだろう。専門分化は研究
を精密に進めるために必要では
あるが、それだけでは「木を見
て森を見ず」という(五面上段へ)

(四面下段より)

欠点に陥ってしまう。そこに、全体とし統合された身体の働き方をみるシステム論的な観点が必要になってくる。近年は医学者の間でも、そういう反省が起こつてきて、ホリスティック医学という理念が唱えられるようになってきている。」

さらに、湯浅氏の面白い点は、東洋の仏教僧の修行に注目し、仏教的な悟りの状態と健康な身体の在り方に共通性を見出した所です。

「われわれにとつて問題なのは、心理療法と修行の関係である。ヨガや禅に代表される東洋宗教の修行法が、臨床医学的応用が可能なのは、瞑想の方法が情緒不安定を解消する効果を持つからである。」(『身体』)

つまり、人間は、何時の時代も病気の不安と闘ってきたのですよね。そして、いつも、その不安を解消し

てくれる手段や方法にすがつて来たのだと思います。

今の時代は、多くの人が現代医学にすがっているわけです。でも、これまで、人類が続いてきたのは、現代医学がなかったおかげだと思いません。むしろ、何千年も前に見出された仏教や道教などの東洋思想に健康を維持する方法はちゃんと示されていたはずなのです。

それが、急速な近代化によつて、人間にだけ有利な歪んだ文明化が押し進められ、便利さだけを追求した結果、不健康という代償を負わされるようになり、応急処置的現代医療に頼らざるを得なくなったというこゝとでしょう。さらに、それが、毎年、薬害による新たな病気を生んでさえいるのです。

改めて、西医学を知っていて良かったと痛感します。おかげで、父の脱腸手術の経過は良好、かつて、時々あつた不整脈すらピタッとやみまし

た。

少しでも体の不調を感じたら、まず、腸の調子を整えましょう！毎日スイマグを飲んで、腸のご機嫌をうかがっていれば、まず、問題なしです。

「大腸は鈍くない、

でも…」



ふつうのラットの大腸を洗つてから、プロピオン酸や酪酸を大腸のなかに流せば大腸は感じるが、その直後に、おなじ酸を倍ぐらいの濃度にして流しても、大腸はもう感じない。これは、大腸の「なれ」が一分間以内に起こることを示している。いったん「なれた」大腸が、もう一度敏感になるには、一〇分間くらいかかることがわかつている。(坂田 隆著『大腸・内幕物語―知られざる臓器をさぐる』から)

排泄を我慢することになると、大腸は簡単に鈍くなる!!…と。(H)

連載便秘 ⑪



西勝造著『便秘』結語からの転載による連載です。著者は西式健康法創始者で、著書は西会本部発行によるものです。前回の⑩では、レーン氏の説をあげて慢性便秘の及ぼす影響が語られました。今回のジョルダン氏については、その説が刻銘的、石に名をきざむようにと語る意味は、著者のこの書にかける核心をなすものと読めるのかもしれない。(H)

ジョルダン氏は、胃、腸、肝臓、胆嚢などの癌腫が慢性便秘から起こることを、刻銘的に説いている。

出会いの確率 ゆめごん
人生 80 年だとして...
親しい会話を持つ人 300人
確率は 2400 万分の 1
友人と呼べる人 30人
確率は 2 億 4000 万分の 1
親友と呼べる人 3人



結婚して27年、よく我慢してくれました!! 私が一番 気楽でいられるカンパ様です(笑)

「腸麻痺症患者の病歴を慎重に調べてみると、その起始はおおむね出生後の第一年ないし数週間目にあることが知られるであろう。多くの患者は、その時以来便秘に悩まされているのであって、初期の幼児時代から胆汁質くなのである。青年時代においては、組織は疾病に抵抗し得るので問題は起こらない。

慢性腸麻痺の場合においては、能動的な病原バクテリアが腸内で繁殖し、腸内に毒物を形成する。かかる毒物は、胸管によって一般循環に運び込まれ、体内のあらゆる生体細胞に達するのである。いかなる組織も、また、いかなる器官も、その恐

くべき影響に抵抗することはできない。これに冒されたる、あらゆる組織は、疾患能因に対する抵抗力を失うに至るのであるが、かくの如き抵抗力の低下が癌の発生を助成すべき潜在的影響をなすのである」云々。

あとがき



青木聰さんから、「三保通信、お久しぶりです。」とお手紙を頂きました。Facebook に近況を公開されて、「皆さんには西式生活の一端が見ていただけるかな？」と書かれていました。(H)

「今の時代は、多くの人が現代医学にすがっているわけです。でも、これまで、人類が続いてきたのは、現代医学がなかったおかげだと思えます。」小山内めぐみさんからのお便りに考えさせられました。最期の時に自分の体を救うのは一体何なのでしょう。(Y)